

神戸大学大学院国際文化学研究科
令和8年度（2026年度）博士課程前期課程入学試験 試験問題

専門科目

科目名	ページ
日本学	1-2
アジア・太平洋文化論	3-4
ヨーロッパ・アメリカ文化論	5-6
文化人類学	7-8
越境文化論	9-10
国際関係・比較政治論	11-12
モダニティ論	13-14
先端社会論	15-16
芸術文化論	17-18
言語コミュニケーション	19-20
感性コミュニケーション	21-22
情報コミュニケーション	23-24
外国語教育システム論	25-26
外国語教育コンテンツ論	27-28

注意事項

著作権に対する配慮のため問題文を省略している場合があります。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：日本学

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域日本学コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 I

自らの研究分野の近年の動向について、具体的な論文や書籍を紹介しながら説明しなさい。

問題 II

以下のキーワードから複数を選択したうえで、テーマを自由に設定して論じなさい。その際、それらのキーワードを有機的に関連づけること。なお、テーマとその設定理由について簡潔に説明し、本文中でそれぞれキーワードを初めて使用した箇所には下線を引くこと。

慰霊	映画館	演技	女性史	スピリチュアリティ	総力戦
大量死	テレビ	パブリック・ヒストリー	復元	保守	

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：アジア・太平洋文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域アジア・太平洋文化論コース

(注)問題用紙 3 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

次の文章を読み、あとの問題 I、II に答えなさい。

(問題文省略)

【出典】渡辺京二『未踏の野を過ぎて』弦書房、2011 年、125－129 頁（一部改変あり）。

問題 I 下線部(1)にいう「現代文明とはまったく異なる仕組みの文明」とは日本の江戸期文明のことであるが、その「決定的な特徴」とは何か。本文に即して要点を述べなさい。

問題 II 筆者の主張をふまえ、近現代の平等主義がどのような事態をもたらしたか、あなたが関心のあるアジア・太平洋地域の国や社会を例にとって論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：地域文化系

コース：ヨーロッパ・アメリカ文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

地域文化系領域ヨーロッパ・アメリカ文化論コース

(注)問題用紙 1 枚、解答用紙 1 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題

近代以降のヨーロッパもしくは南北アメリカにおける「自由」に関する著作、あるいは事象について、具体的に論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：文化人類学

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

異文化コミュニケーション系領域文化人類学コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 I

以下の(1)~(6)について、簡潔に説明しなさい。なお、(1)~(4)については、文化人類学においてどのような議論が展開されてきたのか、(5)、(6)については、文化人類学の学史的流れを踏まえつつ、それぞれの文化人類学者の研究がどのような特徴を持つものなのか、説明すること。

- (1) 呪術 (magic) と宗教 (religion)
- (2) 政治 (politics)
- (3) 互酬性 (reciprocity)
- (4) 民族誌 (ethnography)
- (5) ブロニスロウ・K・マリノフスキー (Bronislaw K. Malinowski)
- (6) クロード・レヴィ=ストロース (Claude Levi-Strauss)

問題 II

文化相対主義は、人類学内外の論者によってさまざまな論争がなされてきた。その学説史と現代世界の状況を踏まえたうえで、文化相対主義の限界や可能性について、自身の考えを論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：越境文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

異文化コミュニケーション系領域越境文化論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

[問題]

人が様々な境界を越える際には、文化や地域の交流や変容が生じる。このような現象を研究することについて、事例をあげて論じなさい。論じる際に以下の語句のうちから1つ以上を選んで用いること。なお、いずれかの語句を初めて使用した箇所には下線を引くこと。

外国人 / 地方創生 / ポピュリズム / 交通 / サイエンス

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：異文化コミュニケーション系

コース：国際関係・比較政治論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程前期課程入学試験
専門科目 試験問題
異文化コミュニケーション系領域国際関係・比較政治論コース

(注)問題用紙 1 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 I E・H・カーは、「歴史とは、歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話なのである」と述べている。これを踏まえて、国際関係・比較政治論における歴史的アプローチの有効性について論じなさい。

問題 II 民主主義体制または権威主義体制のどちらか 1 つを選び、その持続要因について具体的な事例を挙げながら論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：モダニティ論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系モダニティ論コース

(注) 問題用紙 1 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 近現代における「科学とイデオロギー」の概念について、思想家の名前を挙げながら論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：先端社会論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系先端社会論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙1枚、下書き用紙1枚

問題の解答は、指定された解答用紙に英語または日本語で記し、1枚に収めること

問題 下記 A 群から 2 つ以上、B 群から 1 つ以上の語句を用いて現代社会の具体的な問題点について論じなさい。その際選んだ語句を「」(カギカッコ)で囲むこと。

A 群から選んだ語句については、文中に 1 行程度でその語句の説明を書き加えなさい。

A 群 移民排斥 ナショナリズムとジェンダー ミソジニー
ジェンダークリティカル 再生産領域のグローバル化 検閲
セトラー・コロニアリズム 望ましい市民 見る-見られる関係
ジェントリフィケーション 相対的剥奪 制度的人種差別
権威主義 性と生殖の権利 民主化

B 群 特定生殖補助医療法案 不法滞在者ゼロプラン パレスチナ
Adolescence 性的ディープフェイク 同性婚訴訟
自民党改憲草案 陰謀論 先住民族の権利
ウポポイ(民族共生象徴空間) DE&I 生成 AI
弱者男性 参政党 赤ちゃんポスト

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：現代文化システム系

コース：芸術文化論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

現代文化システム系芸術文化論コース

(注)問題用紙 1 枚、解答用紙 1 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 以下の(1)、(2)から1問を選択し、日本語または英語で答えなさい。解答にあたっては、選択した問題番号を明示すること。

- (1) 近年、様々な分野で、AI など最新のテクノロジーを用いた制作が行われるようになってきた。そうした実践を踏まえつつ、新しいテクノロジーが芸術文化に及ぼす影響と変化について、具体的な例を挙げながら論じなさい。
- (2) 昨今、世界各地で戦争や騒乱が続発するとともに、社会的・経済的な混乱も高まり、世界情勢は危機的状況をむかえている。こうした危機の時代における芸術文化のあり方について、具体的な例を挙げながら論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：言語コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

言語情報コミュニケーション系言語コミュニケーションコース

(注)問題用紙2枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問1、問2の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 次の文章を読み、あとの問1、問2に答えなさい。

(問題文省略)

出典：鈴木玲子「変わるものと変わらないもの」『言葉から社会を考える——この時代に〈他者〉とどう向き合うか』白水社、2016年、112頁。

問1 著者が指摘しているとおり、言語は変化するものである。言語変化は、音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論など様々な観点から論じることが可能であるが、あなたの専門分野において、言語変化はどう取り扱われているか、具体例を挙げながら、述べなさい。

問2 急激な言語変化に対し、「標準語」「正しいラオス語」を大切にし、それに歯止めをかけようとする動きもあると著者は述べている。あなたの専門分野において、「正しい〇〇語」(〇〇語は任意の言語)はどのように捉えることができるか、論じなさい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：感性コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

言語情報コミュニケーション系感性コミュニケーションコース

(注)問題用紙 1 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

テーマ群から二つ選び、それぞれについて、その特徴と今後探求すべき課題に焦点を当てて論じなさい。その際、それぞれのテーマについてキーワード群から二語以上を用いて論じること。二つのテーマに対して同じキーワードを使用しないこと。

テーマ群: 顔 触れ合い 注意 感情 言語接触 方言 日本語学習
若者のことば

キーワード群: 脳機能イメージング法 ミラーニューロンシステム ストループ効果
ワーキングメモリ 宣言的記憶 韻律 基本情動理論 自律神経系 ポップアウト
プライミング フォルマント 母語干渉 共時的 汎文化性 パラ言語 標準語
通時的

令和 8 年度 (2026 年度) 神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：言語情報コミュニケーション系

コース：情報コミュニケーション

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語又は英語

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具（※筆箱等から出すこと）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。）、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度（2026年度）神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

言語情報コミュニケーション系情報コミュニケーションコース

（注）問題用紙 1 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

問題の解答は、それぞれ指定された解答用紙に日本語または英語で記入すること

問題 以下の説明文を読んで問1～問4に答えなさい。

多様化する犯罪を防ぐ手段として監視カメラは欠かせない存在となっている。近年では技術的な進歩を背景として、画像認識 AI を搭載した監視カメラの普及も進んでおり、防犯以外へと活用範囲を広げている。高性能の画像認識 AI を利用した監視カメラの活用においては倫理的な問題も指摘されており、その運用には慎重さが求められる。

スマートフォン、スマートウォッチ、スマートグラスなど、録画・録音機能を備えたデバイスを誰もが所有するようになった現代では、そのメリットの一方で、状況に応じた撮影や分析の可否を個々の倫理観に委ねてしまっている。この問題を改善する方法の1つとして、撮影・記録・分析を認めるかどうかをデバイス間でやりとりする自動同意技術を構想することができる。同意内容はスマートフォンアプリ（以下、「自動同意アプリ」と呼ぶ）で設定され、各種のデバイスはそれを確認し、同意が確認できた範囲内で撮影等を行うというものである。

問1 監視カメラに画像認識 AI を搭載するメリットを3つ挙げ、それぞれについて簡潔に説明しなさい。

問2 自動同意技術の実装には、同意内容の通信と同意した人・対象物の認識が必要である。その2つのうちどちらがより難しいか、理由とともに説明しなさい。

問3 自動同意技術を意義のある形で普及させるためには同意したい・してもよいと判断してもらえるような設計上の工夫が必要である。どのような場面でも一般的に利用できる工夫、大学内など特定のエリアを想定することで可能となる工夫をそれぞれ1つずつ考えて、簡潔に説明しなさい。

問4 神戸大学のラーニングコモンズ（開かれた共同学習空間）では全員が自動同意アプリを利用するようになったという仮定に基づいて、撮影・録音データを活用して大学生同士の交流を促進するアプリケーションの案を考えて説明しなさい。解答には図表を用いてもよい。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：外国語教育系

コース：外国語教育システム論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語での解答を義務づけていない設問については英語による解答を認める。

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具(※筆箱等から出すこと)、時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。)、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけ取り出したもの)のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

外国語教育系外国語教育システム論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に、日本語または英語で記入すること

問題 I ことばの教育と学習において、「対話」や「会話」がどういった意味をもつか、また、両者の違いが果たす役割について、あなたの考えを論述しなさい。

問題 II 次の(1)から(7)の設問の中から2つ選び、答えなさい。なお、解答にあたっては選択した設問の番号を解答用紙の()の中に明記すること。解答の順序は問わない。

- (1) 外国語教育において、学習者の音声による言語コミュニケーション力の育成を促すためにはどのような活動が有用であると考えられるか、その理由と具体例を挙げて論じなさい。
- (2) 言語学的知見を用いた文学作品の分析として、どのような手法が可能か説明しなさい。
- (3) 音声言語と手話言語の共通点と相違点を説明しなさい。
- (4) 前方照応的用法(anaphoric usage)とは何か、具体例を挙げながら説明しなさい。
- (5) 言語記号の表記手段としての表意文字と表音文字の違いについて、具体例を挙げて説明しなさい。
- (6) 第二言語習得研究における「認知的アプローチ」と「社会的アプローチ」とはどのようなものか、具体例を挙げて説明しなさい。
- (7) 外国語のリーディング力を育成するのに有効だと思われる活動について、人間の言語情報処理プロセスと関連づけて説明しなさい。

令和 8 年度 (2026 年度) 神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

領域：外国語教育系

コース：外国語教育コンテンツ論

※本コース専門科目の解答に使用できる言語：

日本語での解答を義務づけていない設問については英語による解答を認める。

受験者への注意事項

以下の注意事項をよく読んで下さい。

1. 試験開始前に問題を見てはいけません。従わない場合は、不正行為と見なされる場合があります。
2. 試験時間中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具（※筆箱等から出すこと）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。）、メガネ、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）のみです。
3. 専門科目の試験に、辞書類はいっさい持ち込めません。
4. 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチやスマートグラス等のウェアラブル端末等の電子機器類は使用できません。電源を切ってかばんに入れておいてください。アラームの設定を解除していない場合、電源を切っても鳴ることがありますので、必ずアラームの設定を解除しておいてください。
イヤホンは耳から外し、かばんに入れておいてください。
また、腕時計は机の上に置き、腕には何も身につけないでください。
5. 試験開始・終了は監督者の時計により合図します。
6. 試験中に質問等があれば、手を挙げて監督者に申し出てください。
7. 試験開始後30分間は退室できません。
8. 試験開始30分経過後は退室することができます。退出する場合には、解答用紙は裏にして机の上に置いてください。
9. 解答用紙の指定の枠外や裏面に記載した内容は採点対象外とします。なお、解答用紙の追加の配布はしませんので注意してください。
10. 解答用紙は必ず提出してください。問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。

令和8年度(2026年度)神戸大学大学院国際文化学研究科

博士課程前期課程入学試験

専門科目 試験問題

外国語教育系外国語教育コンテンツ論コース

(注)問題用紙1枚、解答用紙2枚、下書き用紙1枚

問題 I、II の解答は、それぞれ指定された解答用紙に指定された言語で記入すること

問題 I

学習者中心の教育アプローチ(Learner-Centered Approach)を外国語の授業に取り入れる上で、(a)具体的にどのような授業内活動が実施可能か、(b)それがどのような意義や利点を持つのか、(c)実施における課題は何か、それを克服する上でどのような点に留意すべきか、の3点について、過去の主要な第二言語習得理論や関連研究等を紹介しながら、あなたの意見を述べなさい。なお、論述にあたっては、解答用紙にある立論構成に従うこと。【日本語または英語で解答すること/Write in either English or Japanese.】

問題 II

実社会におけるコミュニケーション能力の育成を重視する立場から、許可を求める(Asking for Permission)場面で使用される表現とその使い方を指導する60分間の授業計画案を作成しなさい。学習者のレベルは初級とする。はじめに、対象とする外国語の種別(日本語または英語のいずれかを選ぶ)、当該授業計画案の目的、具体的な対象者、前提とする教授理論や言語習得理論と、それを応用する理由を明記した後、解答用紙の記載枠に従い、授業計画案を記入しなさい。【日本語で解答すること】